

(仮称) 第3こども園整備基本計画 概要版

○背景・目的

当市においては、就学前児童数は減少しているものの、保育ニーズ、低年齢児の利用ニーズが高い傾向であるのに対し、保育園、幼稚園ともに施設の老朽化、幼稚園においては園児数の大幅な減少により幼児教育における適正な集団規模の確保が困難な状況の園が増加しています。

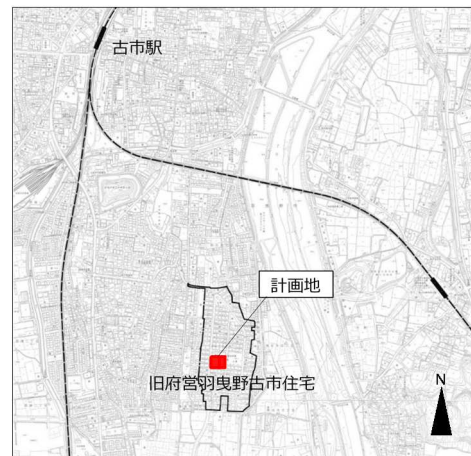
「就学前教育・保育のあり方に関する基本方針」に基づき、下開保育園、古市幼稚園、古市南幼稚園、駒ヶ谷幼稚園を統合し、現下開保育園付近で(仮称)第3こども園を整備することにより、保護者の就労の有無にかかわらず、こどもの発達や学びの連続性を確保し、就学前の教育・保育を提供できる認定こども園の整備を進めていきます。

○施設概要

定員：175人(想定)
 対象年齢：0～5歳児
 施設の種類：幼保連携型認定こども園
 敷地面積：約2,770㎡
 延べ面積：約1,700㎡
 構造：鉄骨造または木造2階建て

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
1号認定	—	—	—	25	25	25	75
2・3号認定	3	7	10	25	25	30	100
計	3	7	10	50	50	55	175
クラス数	1	1	1	3	2	2	10
教職員数	2	2	2	3	2	2	13

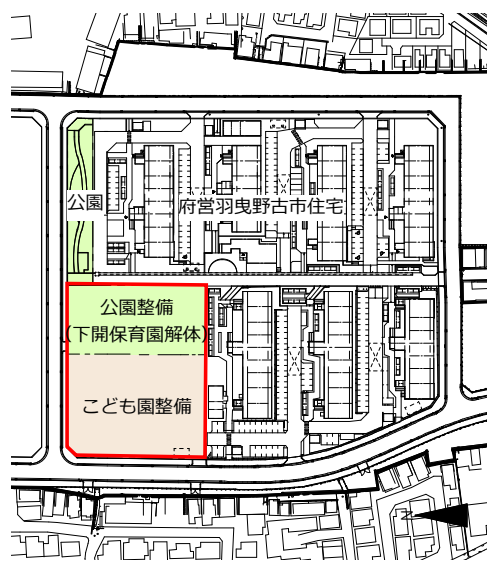
○付近見取図



○計画敷地の概要

所在地	羽曳野市古市1394付近
開発区域面積	約4,620㎡(こども園整備用地：約2,770㎡、公園整備用地：約1,850㎡)
用途地域	第一種中高層住居専用地域
容積率・建ぺい率	200%・60%
防火地域	防火地域指定なし 建築基準法第22条区域
日影規制	4hr(5m) 2.5hr(10m) 測定面：GL+4m 規制時間：冬至8時～16時
斜線制限	道路斜線：1.25×道路幅員、隣地斜線：20m+1.25×D
接道状況	西側：幅員13.0m、北側：幅員11.5m
インフラの状況	上水道 敷地南西側から引込み済 下水道(雨水) 敷地北東の最終樹(既設)から排水 ※雨水貯留槽必要なし 下水道(汚水) 敷地北西の最終樹(既設)から排水 ガス 西側道路に敷設あり 電気 西側道路に敷設あり
その他	浸水想定区域(5m以上)、既設の防火水槽あり

○配置図



○工事の概要

- ・(仮称)第3こども園約1,700㎡の新築
- ・現下開保育園約530㎡の解体
- ・開発公園(現下開保育園跡含む)約1,850㎡の整備

○工程スケジュール

	R5年度			R6年度			R7年度			R8年度		
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
設計			基本設計		実施設計							
工事					開発・計画通知							
					工事業者選定							
							建設工事					
											初園準備	
												下開保育園解体
												公園整備
												仮使用・完了検査

○基本コンセプト

- こどもの動線整備
- 木の素材を生かした保育環境の整備
- 災害に備えた施設整備
- こどもの育ちを支える環境の整備
- 地域につながる公園整備

○整備計画案

施設の配置計画としては、園長会議等で意見徴収し、園舎はなるべく保育室が南側に面する配置とすること、園庭は公園とはオープンにつながらないこと、駐車場は南側の府営住宅側に配置して西側主要道路から車の乗入れとすることで、整備計画案としてまとめます。

3歳児保育室の位置については、3歳児保育室を1階とする案①と2階とする案②の2案を作成します。

<配置計画>

- ・園舎は北東側にL型で配置し、園庭は公園に直接面しない位置とします。
- ・駐車場・自転車置場は府営住宅との緩衝帯として南側に配置します。
- ・西側のメイン道路に正門を設けて主要な出入口とし、職員用の出入口は別途北側に設けて、職員専用の自転車置場も設けます。
- ・保育室は基本的には南向きに配置し、0～2歳児は1階、4～5歳児は2階とします。
- ・乳児用に園庭とは別に小園庭を設けます。
- ・浸水対策として、全員が避難できる避難スペースを屋上に設けます。
- ・環境配慮として、太陽光設備を屋上屋根に設置します。

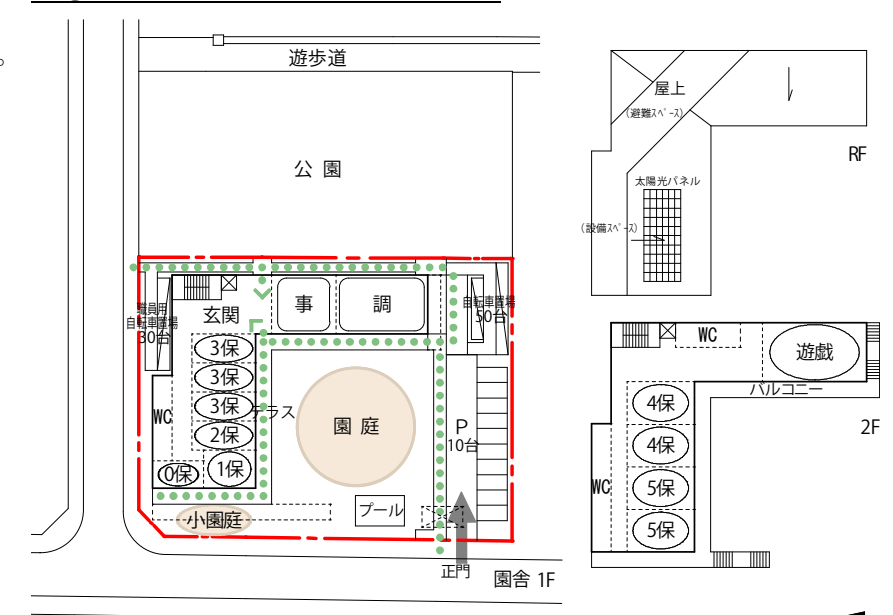
<動線計画>

- ・保育室から園庭やプールには、1階はテラスを通過して、2階はバルコニーを通過して行くことができる動線とします。
- ・調理室へは車が寄り付けるスペースを設けます。

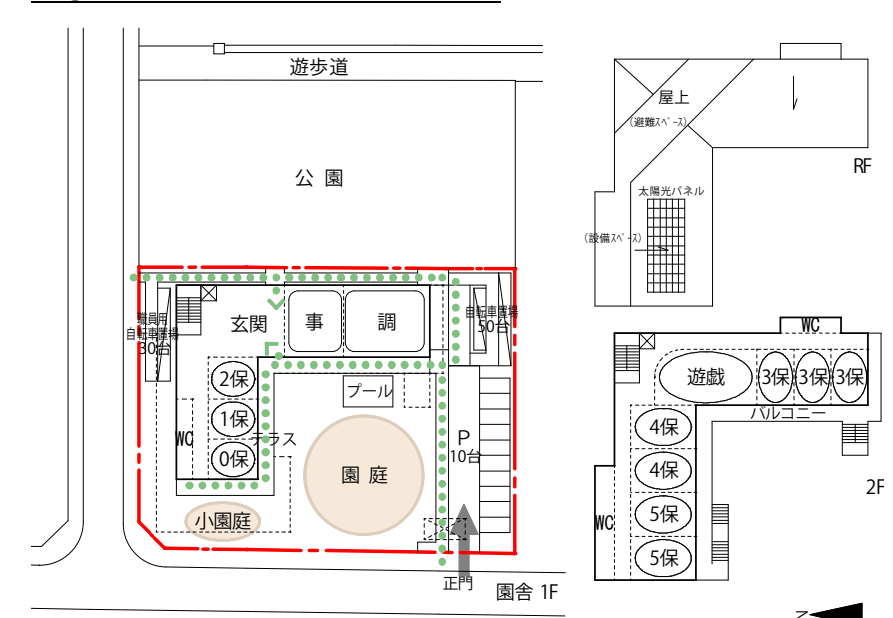
<課題>

- ・3歳児保育室は、2階とした方が保育室はゆとりをもって配置できると思われるのですが、詳細検討を進める中で1階又は2階で検討することとします。
- ・園児用の下足箱は、玄関にまとめるのか各保育室のテラス・バルコニー側に設けるかは、運営面と合わせて検討することとします。

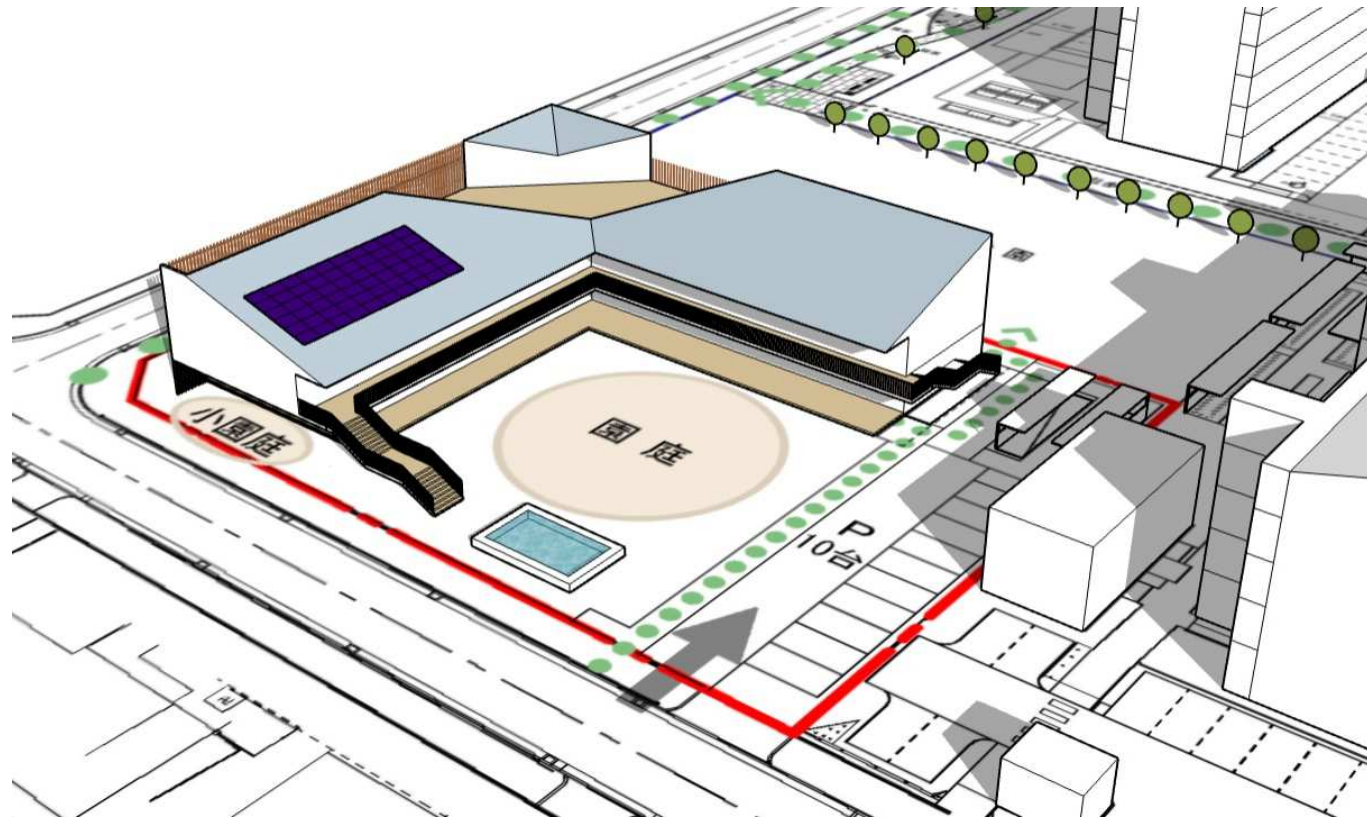
案①：3歳児保育室を1階とする案



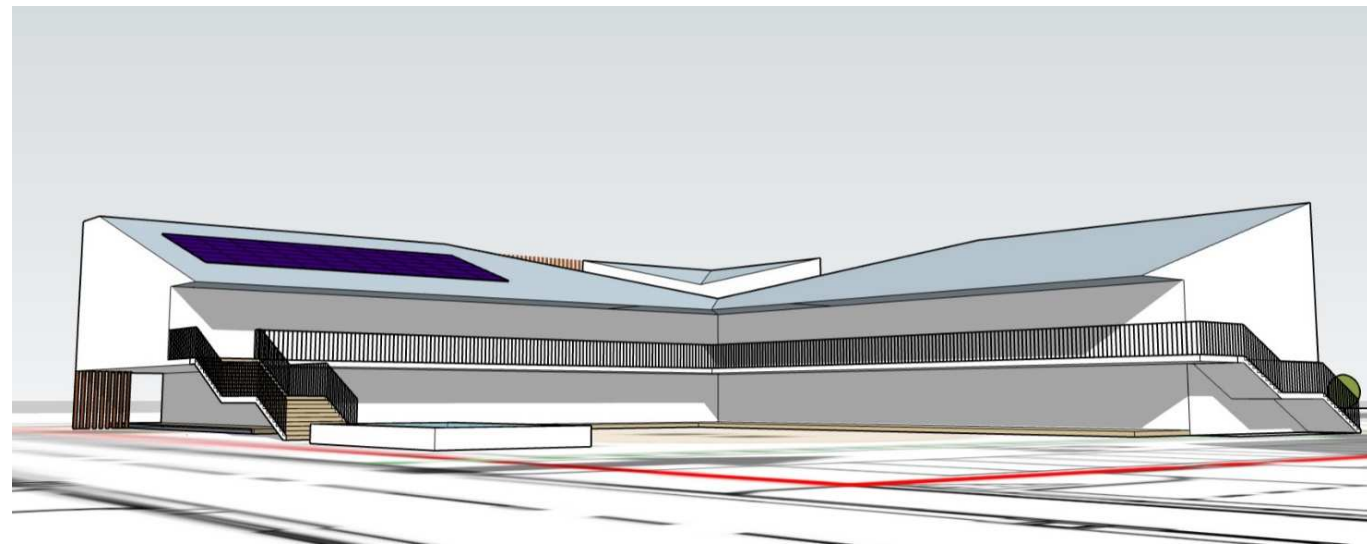
案②：3歳児保育室を2階とする案



○鳥瞰図



○透視図



○概算事業費（消費税込み）

項目	概要		小計	合計	地方債等の対象項目
建設費	第3こども園 新設費	約 1,700 m ² 外構、杭等含	969,000,000 円	1,029,150,000 円	○
	下開保育園 解体費	約 531 m ² アスベスト撤去等含	49,383,000 円		○
	開発公園 整備費	約 1,850 m ²	10,767,000 円		○
設計費	基本設計	地盤調査費含	9,920,900 円	44,018,700 円	—
	実施設計（新築）		29,763,800 円		○
	実施設計（解体）	アスベスト調査費含	4,334,000 円		○
工事監理費			36,758,700 円	36,758,700 円	○
合計				1,109,927,400 円	—

○公共施設等適正管理推進事業債の活用

今回の事業においては、公共施設等適正管理推進事業債のうち集約化・複合化事業を活用するため、新設こども園の延床面積は統合する施設（下開保育園、古市幼稚園、古市南幼稚園、駒ヶ谷幼稚園）の合計 2,017.88 m²以下とする必要があります。